※令和４年度以降入学生用

| 学校番号 | 219 |
|---|---|

# 令和８年度　地理歴史科

| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 日本史探究 | 単位数 | ４単位 | 年次 | ３年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 「詳説日本史」　（山川出版社） | | | | | | |
| 副教材等 | 山川　詳説日本史図録（第 10 版）（山川出版社） | | | | | | |

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史という時間軸を感じる。
・歴史的事象に「なぜ」の視点を持ち、論理的に考える。
・歴史的事象に政治・社会・経済・外交・文化など多面的な視点を持ち、現在の日本・世界の在り方を考える。

2　学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。我が国の歴史の展開に関わる諸事象について，諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義，伝統と文化の特色などを，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現在とのつながりなどに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，歴史に見られる課題を把握し解決をする力を養う。また、これらを通して現代における諸問題に積極的にかかわり、学ぶ姿勢を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について，地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 | 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。 | 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 1 | 日本文化のあけぼの | 1　文化の始まり<br><br>2　農耕社会の成立 | a：日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。<br><br>b：黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。<br><br>c：黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。 | 定期考査<br>提出課題 | 定期考査<br>提出課題<br>発問評価 | 発問評価<br>授業態度 |
| | 古墳とヤマト政権 | 1　古墳文化の展開<br><br>2　飛鳥の朝廷 | a：国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。<br><br>b：中国の歴史書の記事、日本列島内外の金石文、小国の王墓の副葬品などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。<br><br>c：中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成について考察することを通じ、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。 | 定期考査<br>提出課題 | 定期考査<br>提出課題<br>発問評価 | 発問評価<br>授業態度 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 律令国家の形成 | 1 律令国家への道<br><br>2 平城京の時代<br><br>3 律令国家の文化<br><br>4 律令国家の変容 | a: 隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。<br><br>b: 文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。<br><br>c: 東アジアとの関係の変化や社会の変化を考察することを通じて、文化とのつながりを主体的に追究しようとしている。 | 定期考査<br>提出課題 | 定期考査<br>提出課題<br>発問評価 | 発問評価<br>授業態度 |
| | 貴族政治の展開 | 1 摂関政治<br><br>2 国風文化<br><br>3 地方政治の展開と武士 | a: 藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。<br><br>b: 国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達などに着目して、貴族の生活・文化の特色を考察し、表現している。<br><br>c: 国司の在り方や徴税方式の変化、武士の出現など、地方の豪族や武力をもった勢力の動向が政治・社会に与えた影響を明らかにしようとしている。 | 定期考査<br>提出課題 | 定期考査<br>提出課題<br>発問評価 | 発問評価<br>授業態度 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 院政と武士の躍進 | 1 院政の始まり<br><br>2 院政と平氏政権 | a: 貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。<br><br>b: 武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。<br><br>c: 古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。 | 定期考査<br>提出課題 | 定期考査<br>提出課題<br>発問評価 | 発問評価<br>授業態度 |
| | 武家政権の成立 | 1 鎌倉幕府の成立<br><br>2 武士の社会<br><br>3 モンゴル襲来と幕府の衰退<br><br>4 鎌倉文化 | a: 諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。<br><br>b: 武家と公家の関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を考察し、根拠を明確にして表現している。<br><br>c: 宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。 | 定期考査<br>提出課題 | 定期考査<br>提出課題<br>発問評価 | 発問評価<br>授業態度 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 武家社会の成長 | 1 室町幕府の成立<br><br>2 幕府の衰退と庶民の台頭<br><br>3 室町文化<br><br>4 戦国大名の登場 | a: 鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成立などについて、諸資料から情報を収集して理解している。<br><br>b: 自治的な村の単位や一揆の組織が成立した要因と背景について、地理的な条件や流通など経済活動との関わりを多面的・多角的に考察し、表現している。<br><br>c: 室町時代の宗教や文化の特徴について、鎌倉時代との比較を通じて類似点や差異を見出そうとしている。 | 定期考査<br>提出課題 | 定期考査<br>提出課題<br>発問評価 | 発問評価<br>授業態度 |
| 2 | 近世の幕開け | 1 織豊政権<br><br>2 桃山文化 | a: 村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流に関する諸資料から情報を読み取り、織豊政権の特色や貿易・対外関係について理解している。<br><br>b: 豊臣政権による朝鮮出兵やヨーロッパ勢力との接触による南蛮文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。<br><br>c: 桃山文化の特色について、中世文化の特色との比較を通じて、その類似と差異を見出そうとしている。 | 定期考査<br>提出課題 | 定期考査<br>提出課題<br>発問評価 | 発問評価<br>授業態度 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 幕藩体制の成立と展開 | 1 幕藩体制の成立<br>2 幕藩社会の構造<br>3 幕政の安定<br>4 経済の発展<br>5 元禄文化 | a: 織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化などに着目して、諸資料をもとに江戸幕府の法や制度の確立や対外政策の推移について理解している。<br><br>b: 新たな支配制度のもとにおける人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。<br><br>c: 幕藩体制が安定していく中で、江戸幕府の諸政策がもたらした人々の暮らしへの影響について、主体的に追究しようとしている。 | 定期考査<br>提出課題 | 定期考査<br>提出課題<br>発問評価 | 発問評価<br>授業態度 |
| | 幕藩体制の動揺 | 1 幕政の改革<br>2 宝暦･天明期の文化<br>3 幕府の衰退と近代への道<br>4 化政文化 | a: 幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆･打ちこわしの頻発などに関する諸資料から情報を読み取り、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について理解している。<br><br>b: 幕藩体制の動揺と文化の展開との関連性について、諸資料から読み取れる情報をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。<br><br>c: 近世後期に形成された文化と近代以降の文化との関係性について、学問・教育・出版文化や庶民文化を事例としてつながりを見出そうとしている。 | 定期考査<br>提出課題 | 定期考査<br>提出課題<br>発問評価 | 発問評価<br>授業態度 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 近世から近代へ | 1 開国と幕末の動乱<br><br>2 幕府の滅亡と新政府の発足 | a: 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。<br><br>b: 日本がどのような契機によって近代的な社会の形成に向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現している。<br><br>c: 幕末の政治動乱の過程を多角的に考察することを通じて、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。 | 定期考査<br>提出課題 | 定期考査<br>提出課題<br>発問評価 | 発問評価<br>授業態度 |
| | 近代・現代の展望 | ①五箇条の誓文と国是<br><br>②貿易の変遷からみる日本の近代・現代 | a: 明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。<br><br>b: 国内体制を欧米の水準に合わせることが改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。<br><br>c: 自由民権運動の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。 | 定期考査<br>提出課題 | 定期考査<br>提出課題<br>発問評価 | 発問評価<br>授業態度 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 近代国家の成立 | 1 明治維新と富国強兵<br><br>2 立憲国家の成立 | a: 明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。<br><br>b: 国内体制を欧米の水準に合わせることが改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。<br><br>c: 自由民権運動の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。 | 定期考査<br>提出課題 | 定期考査<br>提出課題<br>発問評価 | 発問評価<br>授業態度 |
| | 近代国家の展開 | 1 日清・日露戦争と国際関係<br><br>2 第一次世界大戦と日本<br><br>3 ワシントン体制 | a: 日清・日露戦争の前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。<br><br>b: 大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮をはじめとするアジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたのかを多面的・多角的に考察し、表現している。<br><br>c: 東アジア・太平洋地域における国際協調体制の特質を考察することを通じて、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究しようとしている。 | 定期考査<br>提出課題 | 定期考査<br>提出課題<br>発問評価 | 発問評価<br>授業態度 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 近代の産業と生活 | 1 近代産業の発展<br><br>2 近代文化の発達<br><br>3 市民生活の変容と大衆文化 | a: 産業の発達の背景と影響などに着目し、諸資料から産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを理解している。<br><br>b: 学校教育の必要性の説かれ方や、学校教育の内容と地域社会の変容、国民意識との関係について、近代文化の形成を踏まえて考察し、表現している。<br><br>c: マスメディアや出版の発達によって誕生した大衆社会が生み出す課題について、自ら主体的に追究しようとしている。 | 定期考査<br>提出課題 | 定期考査<br>提出課題<br>発問評価 | 発問評価<br>授業態度 |
| | 恐慌と第二次世界大戦 | 1 恐慌の時代<br><br>2 軍部の台頭<br><br>3 第二次世界大戦 | a: 国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、日本で連続した恐慌と政府の対応などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解している。<br><br>b: 当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。<br><br>c: 日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。 | 定期考査<br>提出課題 | 定期考査<br>提出課題<br>発問評価 | 発問評価<br>授業態度 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 占領下の日本 | 1 占領と改革<br><br>2 冷戦の開始と講和 | a: 第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。<br><br>b: 地域社会の変容にも留意しながら、占領の前後の社会や思想・文化などを比較・考察し、その結果を根拠を明確にして表現している。<br><br>c: 連合国による日本占領機構の特色やその目的を考察することを通じて、戦後改革がどのような社会の枠組みを形成したのか、主体的に課題を追究しようとしている。 | 定期考査<br>提出課題 | 定期考査<br>提出課題<br>発問評価 | 発問評価<br>授業態度 |
| 3 | 高度成長の時代 | 1 55 年体制<br><br>2 経済復興から高度経済成長へ | a: 保守合同による自由民主党の成立から、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯について諸資料から情報を読み取り、外交・政治・経済を踏まえて理解している。<br><br>b: 日本の経済復興や高度成長を国際関係から関連づけたり、様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察したりして、その結果を表現している。<br><br>c: 高度経済成長がもたらした国内的・国際的な日本の変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。 | 定期考査<br>提出課題 | 定期考査<br>提出課題<br>発問評価 | 発問評価<br>授業態度 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 激動する世界と日本 | 1 経済大国への道<br><br>2 冷戦の終結と日本社会の変容 | a: ドル＝ショックや石油危機による世界経済の混乱に対応するため主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったことを理解している。<br><br>b: 国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。<br><br>c: 冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。 | 定期考査<br>提出課題 | 定期考査<br>提出課題<br>発問評価 | 発問評価<br>授業態度 |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度